

本市の地方創生に関する主な取り組みと人口推移についての報告

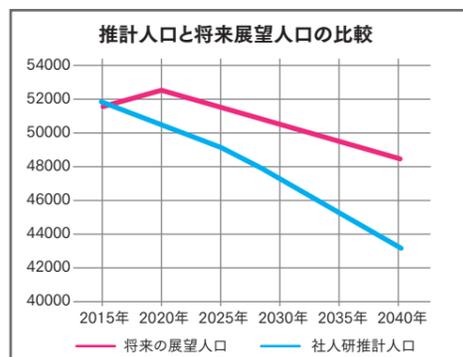
そもそも地方創生ってなに？

地方創生とは、「東京圏の一極集中の是正と各地域における人口の確保を目的とした一連の政策」のことです。

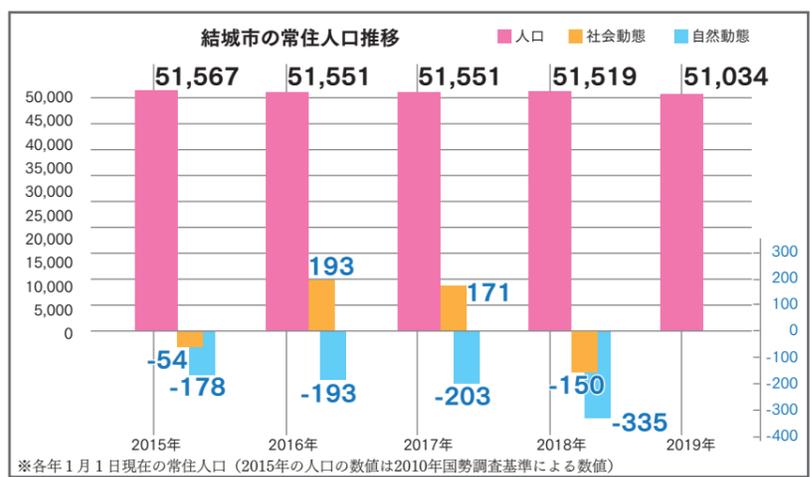
日本の総人口は、2008年をピークに減少に転じ、今後人口減少が急激に進行していきます。そのような中、国は、東京圏への人口の一極集中を是正し、それぞれの地域において一定の人口を確保し、将来にわたり活力ある日本を維持することを目的として、まち・ひと・しごと創生法を公布しました。本市においても、結城市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、市の人口を維持するためのさまざまな事業に取り組んできました。この地方創生の取り組みが始まり4年を経過する今、取り組みの成果（途中経過）を報告するとともに、今後の展望について市民の皆さんと考えていきます。

将来の市の人口の見込みは？

社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の推計によると、本市の人口は2040年に43,085人まで減少するとされました。これをさまざまな事業によって、2040年に48,453人を目指そうというのが、地方創生事業のあらましです。



ここ数年間の人口推移を見てみよう！



解説・・・自然動態は、ここ数年出生数より死亡数が上回っており、この傾向は値を増やしつつ、当分の間続いていくことが確実視されています。一方、社会動態は、転入増となっている年もあり、自然減を転入増で補い、人口が横ばいで推移することもありました。しかし、転入増となっている年は、自然減とあわせて人口減少幅が大きくなっています。今後、人口減少を食い止めるには転出する人をとどまらせる、転入する人を呼び込むといった施策が必要となります。

ポイント：1年単位で見ると横ばいとなっている年もあるけど、長期的に見れば当市でも減少傾向がうかがえる。



本市の特長的な取り組み

ここでは地方創生事業の中でも、本市独自の特長的な取り組みを紹介します。

新しい働き方の提案

コワーキングスペース Yui nowa の設置

テレワーカーやフリーランスの若者が場を共有することで情報を交換できる「しごと場」として誕生。新しい働き方に対応でき、人と人の対流拠点となっています。



利用方法は無限大！皆さんの利用をお待ち申し上げます！



新しい人の流れを作る

移住定住事業の取り組み

どれだけ本市が暮らしやすい街だとアピールしても、数ある市町村の中から本市を選び、一足飛びに移住というのはなかなか現実的ではありません。そこで現在は移住予備軍ともいえる、本市に興味を持つ層に対して本市を理解してもらう関係人口形成に力を入れています。

東京圏において本市への関心が高い層を対象にセミナーを開催し、移住体験談の紹介や、特産品を提供する交流会を開催し、本市への関心を高め移住へのハードルを下げる事業を行っています。



結城の魅力が余すところなく伝えます。手応えを感じています。

（担当の商工会議所野口さん）



将来の結城を支える人材づくり

IT人材育成事業 学生コースの開催

本市から人口が流出する理由の一つに、若者にとって働きたい職場がないという声があります。そこで、事業所にIT化を進めるための事業者向けITスキル養成講座を開催し、若者が働きたい職場づくりを推進するとともに、本市の将来を担う高校生に対しても、インターネット販売スキルのノウハウを取得し、将来の地元での就職・起業を考える授業を行いました。



市内の人気洋菓子店の商品を題材に、これからのインターネット販売について学びました。（写真は鬼怒商業高校の成果発表会の様子）

地方でもITを活用すれば商圏が広がります。授業を受けたい生徒たちが地元企業で活躍することを期待します。

（授業に協力していただいたアルチザンパティシエタバシの板橋さん）



専門家からのメッセージ



市まち・ひと・しごと創生推進会議 小笠原伸会長（白鷗大学ビジネス研究所所長）

地方都市はこれから人口減や産業構造の変化などもありさまざまな困難が訪れます。しかしその状況は地域的に適切に備えて自ら変化してゆくことで、多くの問題を乗り越えられます。それは結城市にも当てはまるもので、結城の未来を構想しながらすべての市民が考え、行動してゆけばいいことでもあります。地域に仕事を生み出し、快適な都市空間を創出し、人々の集う場をどのように設けてゆか、結城市民の皆さんのアクションとネットワークづくりが進むことを期待したいと思います。

人口が減少していく時代には一人ひとりの役割と責任が大きくなる。付加価値の高いパフォーマンスをすることが大切！

